

農業



令和5年9月号

会誌 No. 1707

目次

巻頭言

生産を基軸とした異業種連携……………江口 文陽 3

論壇

学校給食の完全実施と無償化を……………行友 弥 4

農業懇話会

儲かる農業都市ふかやの実現に向けた……………福嶋 隆宏 6
DEEP VALLEY アグリテック集積の取り組み

表彰農家訪問

雨よけテント栽培をいち早く導入し、……………長谷川美典 22
サクランボ大規模栽培のモデル
—山形県村山市に笹原恭治さんを訪ねて—

食を楽しむ

食へのリスペクト……………田中 輝美 29

研究の最前線

害虫のハダニはチョウヤガの幼虫の足跡を避ける……………金藤 栞 30
—夢のハダニ忌避剤開発へのヒント—

農業・農村の現場から

スクミリングガイ駆除トラップによる環境保全型農業の……………岩澤 裕来 37
実践とトウキョウサンショウウオ米のブランド化

世界の農業は今

宇宙からアジアの農地を見つめる……………本郷 千春 42
—インドネシアにおけるリモートセンシングを活用した水稻の損害評価—

私の経営と志

大阪府羽曳野市でイチジク・野菜栽培……………川崎 佑子 49
—彩り豊かな農コミュニティづくりを目指して—

農家の気持ち

日本の端、久米島で農業経営者になる……………中根みすず 51

統計情報

2023（令和5）年産一番茶の摘採面積、生葉収穫量および荒茶生産量
（主産県）…………… 52

農政情報

…………… 53

大日本農会だより…………… 54

編集部から…………… 54

会誌『農業』に関するアンケート

表紙写真説明

静岡水わさびの伝統栽培（静岡県ワサビ地域）

静岡県の水わさび栽培は、今から400年以上前に現在の静岡市葵区有東木^{うとうぎ}で始まり、これが発祥の地とされています。駿府城で晩年を送っていた徳川家康は、献上されたワサビを気に入り、有東木から門外不出のご法度品としたとの言い伝えも残っています。

その後、伊豆地域へ渡ったワサビ栽培は「壘石式ワサビ田」と呼ばれる栽培方式へと発展し、現在へと伝わっています。下層に大きな岩を敷き詰め、上層へ徐々に小さな石を積み上げ、表層には砂礫^{れき}を敷く多層構造に豊富な水を掛け流すことで、水温の安定と養分や酸素を供給し、一年を通して高品質なワサビを生産することができます。

山あい形成されたワサビ田は、台風や大雨といった自然災害を繰り返し受けながらも、伝統的な栽培方法が多くの生産者の手により受け継がれ、大切に育てられたワサビが私たちの食を豊かに彩ってきました。そして、2018年には「静岡水わさびの伝統栽培」が世界農業遺産として登録され、今年で5年目を迎えます。今後も世界から認められた伝統栽培の価値や魅力について、多くの方々の共感を得ながら、未来につなげていきます。

（写真：静岡県農林技術研究所伊豆農業研究センターわさび生産技術科 主任研究員 小高 宏樹、文：静岡県経済産業部農業局農芸振興課みかん特産班 主任 前田 未野里）